

そらにうつくしいつきがのぼる。

やわらかなひかりが、いえいえのや
ねをてらしている。そのひかりのし
たを、ひとりのおんながしずかにあ
るいていた。どこか、とおくへいき
たくなるようなよるだった。

ひぐちいちよう「じゅうさんぞ」より